

受託研究 三宅村郷土資料公開・保存事業

期間：2021年11月16日～2022年3月25日

〔所員〕角南聡一郎 安室 知

〔客員研究員〕田上 繁

三宅村郷土資料の公開と保存事業―「七島文庫目録」の刊行

越智 信也

2015年度より田上繁所長（当時）のゼミ調査としてはじまった三宅村郷土資料の公開と保存の作業は、2016年度より受託研究として位置づけられ、2021年度で6年目を迎えた。

2020年冬に始まった新型コロナウイルスの感染拡大によって、2020年度の三宅島調査は中止とせざるを得なかった。しかし、翌2021年の11月以降はいくらかの落ち着きをみせ、調査出張が可能な状況となってきたことから、2022年1月7日（金）から1月10日（月）までの3泊4日（うち1泊は船中泊）の日程で、2年ぶりに三宅島を訪れることになった。

団長の田上繁客員研究員は、仕事の都合で1日目午後に帰浜することになり、三宅村教育委員会教育長の加藤一則氏と1月8日にお会いして、お互いの無事を確認し合うとともに、これまでの経緯や今後の作業についても意見交換を行うことができた。

2022年度作業の目的は、以前より取り組んできた「七島文庫」の整理と目録化を図るため、すでに入力済みのデータのチェック、書誌データを取るための奥付や表紙の追加撮影を進めた。その一方で、目録集に収録する予定の同文庫の解題を執筆するため、「七島文庫」の作成者・故浅沼悦太郎氏の資料収集の経緯や動機を知るための資料を探索し、資料撮影を行った。本学大学院歴史民俗資料学研究科博士後期課程に所属して民俗学を研究する小野寺佑紀氏がもっぱら浅沼氏の事績に



写真1 三宅島巡検の様子



写真2 三宅島伊ヶ谷地区の「希望の鐘」

ついて調査した結果、諸々のことが判明した。特に柳田國男が主催した民間伝承の会の機関誌『民間伝承』に、「三宅島方言補遺」をはじめとした、浅沼氏が寄稿した文章がしばしば掲載されており、浅沼氏逝去の後には「三宅島の浅沼悦太郎氏の逝去を悼む」の小特集が組まれ、大間知篤三、戸田謙介両氏をはじめ15名の追悼の文章が同誌に寄せられている。今回の調査でも、最終日には三宅島内の火山噴火の痕跡や文化財を、教育委員会の中込哲氏にご案内いただいた。

調査後に編集作業を行い、『三宅島郷土資料館所蔵 七島文庫目録』は2022年3月に完成して印刷に付された。

今後の課題として、三宅島郷土資料館の民具資料等の目録作成が残されている。すでに展示されている民具の他に、収蔵庫に収められているものもあり、中には考古資料も含まれている。それらを一覧できる目録の作成と三宅島における民具資料の特色等を調査する作業を2022年度以降に取り組み、何らかの成果報告へとつなげたいと考えている。

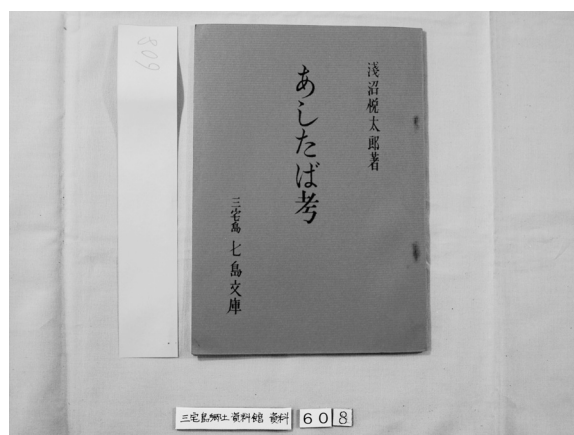


写真3 七島文庫所収『あしたば考』浅沼悦太郎著

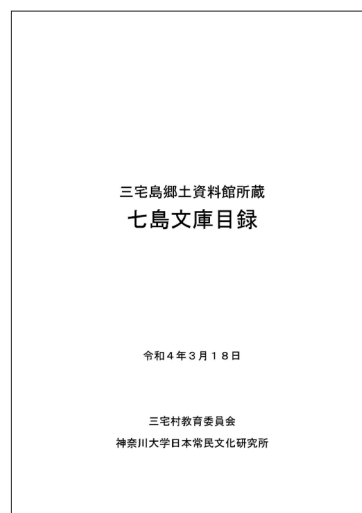


写真4 『三宅島郷土資料館所蔵 七島文庫目録』表紙

■ 2021 年度の活動

○三宅島郷土資料館の資料整理作業 2022年1月7日～10日 三宅島郷土資料館
田上繁・越智信也・小野寺佑紀・余瑋